

大阪+知的障害+地域+おもしろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2840号 2016.2.1 発行

介護施設のある試み 辞める職員を減らすために...カンテレワンダー 2016年1月28日

高齢者の介護について、厳しい現状を表すデータがあります。

<6人に1人が離職>

これは、介護に携わる仕事をしている人が仕事を辞めてしまう割合です(2014年 国などの統計)。

この状況をなんとかしようと、ある取り組みを始めた大阪の高齢者施設を取材しました。

東大阪市の特別養護老人ホーム『ヴェルディ八戸ノ里』。100人の高齢者が暮らしています。

12人前後のグループを担当する職員は、通常二人。時には一人に対応する場合があります。

ことし99歳になる浅間杉恵さんは、看護師として一人で働いて来ました。今は中程度の認知症があります。

【浅間杉恵さん(99)】「お姉さん、宜しくよ。お願いします」

頻繁にトイレを訴えます。

ようやく空いた職員の手。しかし、浅間さんはトイレの前で待たされていました。

職員は、徘徊するほかの入居者の対応に追われていたのです。

【浅間さん】「家に帰りますからな。そのように家族に伝えておいて下さい。伝えて下さい。あんたじゃ話にならんのだや!」

【女性職員】「行き届かないところが出て来てしまっ。もう少し人がいればと...」

浅間さんを担当する職員の正岡真季さんは、ここで働き出して10年目。デイケアを受ける



家族の様子を見て、この世界に憧れ



した。

【正岡真季さん】「小さい頃からおじいちゃん、おばあちゃん、住んでいたんで。一緒に。(お年寄りが)好きは好きなんですけど。笑顔になって貰うのと、笑って貰うのと...、それを目指しているかな」

認知症介護のベテラン、正岡さんも理想と現実のギャップに悩んでいました。

【正岡さん】「辞めたいなと思ったこともあります。やっぱり業務もせなあかんし、利用者さんの訴えも聞かなあかんし、もうイライライライラする 때가あったんで」

この1年間で、辞めた職員は6人。

【植北康嗣 施設長】「うちの施設だけでなく、介護とか福祉の分野というのは、本当にネガティブな情報が多いと思います」

賃金の割りに厳しい労働。それが職員が辞めてしまう一番の原因なのではないでしょうか。施設長の植北さんは、今の仕事を見つめ直しました。

【植北施設長】「もう本当にありきたりかも知れないですけども、”向き合うケア”というのをちょ



っと、考えていきたいなと思って...」

自分たちは入居者と本当に向き合っているのだろうか...

植北さんは職員に対して、入居者と一緒に家族へ手紙を書いてみては？と提案しました。

【植北施設長】「なんかホッとするとところがあるん違うかなと。利用者さんが笑ろてくれるとか、家族が喜んでくれたりするとか。それがこの刺激になって仕事のモチベーションも上がるというのがあると」

【男性職員】「正直、現場として「エッ」という声は、何人かあるんですけど、でも僕は凄く賛成は賛成で。伝えるということが一番の目的。伝えるとか、繋がるということが」

とにかくやってみよう。正岡さんと認知症の浅間さんが手紙を書くことになりました。

【正岡さん】「一緒に(手紙を)書いて見ようか。

和歌山のお兄ちゃん喜ぶわ」

宛先は、「お兄ちゃん」と呼んでいる和歌山の浅間さんの実家に暮らす甥。月に1回は面会に来ますが、仕事に追われる正岡さんは、じっくり話をしたことがありませんでした。

新たな発見がありました。浅間さんは毛筆が得意だったのです。

【正岡さん】「何て読むの？」

【浅間さん】「ご安心下さい」

【正岡さん】「なんか、お兄ちゃんに伝えたいことがある？」

【浅間さん】「ただ私は元気やいう。それだけでええねん」

【正岡さん】「それが伝えたいから元気、元気って

書いて

くれるの。そうか、分かった」

【正岡さん】「何て書いたん？」

【浅間さん】「また元気で田舎で会いましょう」

【正岡さん】「凄い」

【浅間さん】「きょうだいがな、ここにおるから、ここら辺におりたいねん」



【正岡さん】「和歌山帰りたいの？」

【浅間さん】「うん」

【正岡さん】「そうか、淋しい？淋しいんや。一人でおるんが？」

【浅間さん】「うん」

【正岡さん】「そうか、初めて聞いたわ、浅間さんが淋しいって思ってる気持ち。一人やもんな。長男の名前は？」

【浅間さん】「長男はな、分からん。もう忘れてる」

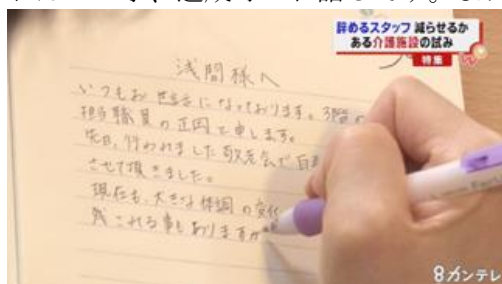
【正岡さん】「そうか。そうか、浅間さん淋しいんやね。今、気づいたわ」

知り合って10年。まだまだ知らないことがあると、正岡さんは気づかされました。

「元気です」と繰り返し書く浅間さんの胸の内を、正岡さんは自分なりに想像しながら手紙に記しました。

<正岡さんが書いた手紙（吹き替え）>

「日々、お話しをさせてもらう中で、よく話題に出されるのが和歌山の家や家族様の様子、わんこの事、道成寺のお話しです。よほど和歌山での生活が印象深く残っているようです」大阪から車で2時間。浅間さんの生まれ育った家があります。



手紙の宛先は、甥の浅間拓文（ひろふみ）さん。

老人ホームから届けられた初めての



の手紙です。

【浅間拓文さん】「もうヴェルディの職員の人にもね、いつもね、本当に大事にしてもらって、おばさんもね、幸せやと思います。有難うございます」

【手紙を見る拓文さん】「おばさん書いたんやな。ニコニコしている顔撮ってもらって。喜んでますね」

大正5年生まれの浅間さんは、尋常小学校を出て、看護師になりました。戦争の時代を経て、総合病院の看護師長を務めました。

【甥・拓文さん】「まあ、しっかりしているな、頭いい人やな、というのは日常からでも分かってましたけど、私にはね、私のこと大事にしてくださいね、どっちかいうと優しいイメージが私にはありますけどね」

後日、甥の拓文さんが、センターを訪ねて来ました。

【甥・拓文さん】「あの正岡さんは…」

【正岡真季さん】「私です」

拓文さんが、まず探したのが、職員の正岡さんでした。

【正岡さん】「誰に伝えたい？って聞いたら、「和歌山のお兄ちゃんや」ってすぐ出て来たから、じゃあ手紙書こうって言うて、書かせてもらいました」

【正岡さん】「浅間さん、誰でしょう」

【拓文さん】「ここにいてるんや」

【正岡さん】「そうなんですよ。ここにいてはったんですよ」

【拓文さん】「あらまあ、おばさん。久しぶりで





す」

【浅間杉恵さん（99）】「和歌山のお兄さん」

【拡文さん】「お兄ちゃんやで。元気でいてるやん。ごはん食べてるか？（手紙を）見せてもらったら、きれいに書いてるんで、びっくりしたんや」

【正岡さん】「お兄さんへ、浅間杉恵です」って」

”向き合うケア”を目指して始めた一通の手紙。介護の仕事を「辞めたい」と思ったことがある正岡さんの心にも変化があったようです。

【正岡真季さん】「びっくりしました。良かったです。これからも...もっと浅間さんのことを家族さんとかに聞いて、浅間さんのほんまの本音を聞けたらいいなと思います」

### 高齢者負担増を議論、自民が新組織 党内反発も 日本経済新聞 2016年2月1日

自民党は社会保障改革を検討する新たな組織を2月中旬に設置する。財政再建に関する特命委員会（委員長・稲田朋美政調会長）の下に置き、歳出抑制策を議論する。高所得の高齢者の負担を増やす案を検討する。夏の参院選を控え、高齢者の負担増には党内からの反発が予想される。

3日に開く財政再建に関する特命委で、小委員会の設置を決める。小委員長には橋慶一郎総務部会長、事務局長には小泉進次郎農林部会長が就く。

### 社会保障費「自然増」連続で圧縮 13～15年度 小泉政権時を上回る 小池議員に厚労省示す しんぶん赤旗 2016年2月1日

安倍政権は「安心につながる社会保障」を掲げていますが、実際には「医療崩壊」を招いた小泉政権を上回る社会保障費削減路線をすすめてきたことが、日本共産党の小池晃参院議員の求めに応じて厚労省が示した、過去3年間の「自然増」の資料から明らかとなりました。

社会保障費の自然増は、高齢者の増加や医療技術の進歩などに伴い、制度を変えなくても増えていく費用です。毎年夏の概算要求で見込額が示されます。自然増の額は毎年8000億円～1兆円程度とされ、2013～15年度の概算要求では、それぞれ8400億円、9900億円、8300億円と見込まれていました。

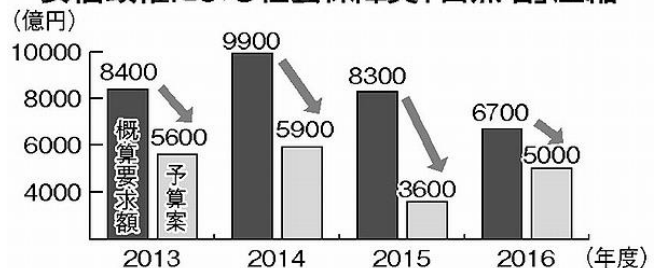
ところが、厚労省が小池氏に示した資料によると、13～15年度の社会保障費の「実質的な増加額」（実際に予算計上された自然増）は、5600億円、5900億円、3600億円。各年度の概算要求からそれぞれ2800億円、4000億円、4700億円という大幅な圧縮が行なわれていました（表）。

安倍政権は「骨太方針2015」（昨年6月）で、13年度から3年間の「社会保障費の実質的な増加」を、1・5兆円程度（年平均5000億円）に圧縮してきたことを明らかにしています。

小池氏は参院予算委員会（18日）でこの問題を追及。毎年8000億円～1兆円の自然増を5000億円に抑えこむとすれば、圧縮額は3000～5000億円となり、「毎年2200億円の社会保障削減を強行した小泉政権を大きく上回る削減額だ」とたたきました。安倍晋三首相も「結果としてそれを上回る形に適正化が行なわれた」と答弁しました。今回示された資料は、それを裏づけるものです。

制度を変えなくても増えていく自然増を圧縮するには、制度を改悪するしかありません。

安倍政権による社会保障費「自然増」圧縮



自然増抑制のために安倍政権は、生活扶助基準引き下げなどの生活保護改悪（13年度～15年度）、診療報酬の実質マイナス改定（14年度）、介護報酬2・27%引き下げ（15年度）と、改悪を繰り返してきました。年金支給額の削減、70～74歳の医療費負担の1割から2割への引き上げ開始も実行しています。

今後も社会保障費の伸びを「年平均5000億円」に抑える方針です。16年度予算案では1%超の診療報酬マイナス改定などにより、自然増を4997億円に抑制。17年度以後に向けて「要介護1・2」の人を保険から外す検討を始めるなど、医療・介護・年金・福祉の連続改悪で社会保障の自然増を徹底して抑制する姿勢を示しています。

## <LIVEトーク>地域全体で育児サポート

読売新聞 2016年02月01日

### ◇赤磐子どもNPOセンター 国正恵美子事務局長



地域のコミュニティーが子どもたちを守る——。赤磐市で活動するNPO法人・赤磐子どもNPOセンターは33年前から、交流イベントなどを通じて訴え続けている。国正恵美子事務局長（56）に活動内容や、全国的に問題となっている虐待や貧困への対策を語ってもらった。

（聞き手・望月堯之）

——最初は劇場という名称だったそうですね。

「旧山陽町に1983年、山陽子ども劇場が設立され、それが母体となっています。観劇などを通して、子どもたちの健全育成を図ろうというのが目的でした。だから今でも年に数回、プロの劇団を招いて舞台を楽しんでいます」

——活動が広がっていききました。

「2000年に現在の名称となり、NPO法人に認証されました。月に1度の割合でキャンプやお祭りといったイベントを開いています。02年には旧赤磐郡の4町から委託され、子育て支援を開始。合併で赤磐市が誕生すると、市から補助金を受けて続けています」

——具体的な支援を教えてください。

「子どもの一時預かりや、保育園などの送り迎えが中心です。支援する側も受ける側も会員制で、子どもを持つ会員から依頼があれば、サポートする会員の住民にお願いしています」

——子育て世帯と住民の触れ合いにも力を入れていますね。

「5年前に築129年という古民家を借り、『陽なたぼっこ』と名付けた拠点を構えました。また、0～3歳児、その保護者を対象とした交流の場も設けています。1人で抱え込まず、地域全体でサポートするのが大切。14年度は延べ4440人が利用し、色々な悩みを打ち明けてくれました」

——地域ぐるみのメリットは。

「虐待や育児放棄といった問題は、周囲が兆候に気づけば防げます。保護者が悩みを気軽に相談できるコミュニティーを形成することが、子育ての質を向上させることにつながり、子どもの幸せになります」

——子どもの貧困も深刻な問題です。

「貧困も虐待と同様に、地域で気づいて支えていく必要があると思いますが、残念なことに見過ごされがちです。そこで、支援団体の代表らを招いたフォーラムを3月13日に市立中央公民館で開きます。ぜひ多くの人に参加してほしいです」

◇国正恵美子（くにまさ・えみこ） 1959年6月、吉備中央町出身。専門学校卒業後、勤務していた岡山市内の靴製造会社で上司に誘われ、ボランティア活動を始める。83年の山陽子ども劇場設立を機に退職し、事務局長に就任。自身も母親として4人の子どもを育てた。赤磐市在住。

## 障害者創作活動の先進 倉吉で「一麦寮」の作品展 日本海新聞 2016年2月1日

障害者の創作活動に先進的に取り組んだ、滋賀県湖南市の「一麦寮」の寮生たちの作品を紹介する「原点回帰／生の象形」が31日、鳥取県倉吉市魚町のくらよしアートミュージアム無心で始まった。寮は社会福祉の父と呼ばれた鳥取市出身の糸賀一雄（1914～68年）らが創設した児童福祉施設・近江学園に関連する施設で、作品展は中国地方で初めて。



展示された障害者による独創的な作品。説明する吉永さん（左）と田村さん＝倉吉市魚町のくらよしアートミュージアム無心

会場には昭和40年代から平成までの陶芸や染め絵、絵画など約80点を展示しており、独創的で伸び伸びとした作品が来場者の関心を引いている。

「一麦寮」は61年に設立。当初は男子寮で、近江学園だけではなく全国から15歳以上の50人が入所。同学園で1年間、糸賀と共に仕事

した吉永太市さん（83）が設立を機に指導員として赴任し、寮生らに粘土に触れさせたのが創作活動のきっかけだった。

無心で粘土に触る寮生たちに、吉永さんは「土には人を落ち着かせるものがある」と直感。自由に土に触れさせた。作品を陶芸家の八木一夫（1918～79年）が見だし、1年後に大阪の百貨店で展覧会を開いたのが世に出た始まりだった。

一時期、創作活動は休止したが4年前、寮の50周年を機に活動再開。作品には作者名もタイトルもないが、寮長を退職後も展覧会の監修に携わる吉永さんは「作者名にとらわれず作品を見てほしい」と語る。

企画したあいサポート・アートインフォメーションセンターの田村輝彦センター長は「人に見せることを意図せず、人間の根源から無垢（むく）な心情が流れ出てた流露の創作活動が垣間見える」と話した。

◇「原点回帰／生の象形」は今月29日まで。3月8～17日は米子コンベンションセンターで。どちらも入場無料。

## 「湖国と文化」冬号を発売 大津京の意義を検証

中日新聞 2016年2月1日

大津京を特集した「湖国と文化」冬号

県文化振興事業団が発行する季刊文化雑誌「湖国と文化」冬号が発売された。今回は「再考大津京」と題し、天智天皇によって築かれた大津京の意義を検証している。

大津京は大津市錦織地区周辺に存在し、六六七年から壬申の乱が起きる六七二年まで都が置かれた。特集では、大津京の建物跡を発掘した県立大の林博通名誉教授の推察や、地形や宗教の観点から見た都が置かれた理由、他の都との比較などを紹介している。



また障害者施設「一麦寮」（湖南市）の吉永太市元寮長による新連載「遊戯焼（ゆげやき）の世界」がスタート。アール・ブリュット（生の芸術）で注目を集める障害者と芸術の関係について執筆している。

B5判九十二ページで六百三十円。県内の主な書店で販売。（問）県文化振興事業団＝0

## スペシャル五輪へ 練習試合

読売新聞 2016年02月01日

### ◆新潟のフロアホッケーチーム

新潟市と南魚沼市で12日から始まる知的障害者のスポーツの祭典「2016年第6回スペシャルオリンピックス(SO)日本冬季ナショナルゲーム・新潟」に向けて31日、新潟市のフロアホッケーチーム「トッキーズ」が同市江南区の県立江南高等特別支援学校の体育館で練習試合を行った。

フロアホッケーは、1チーム6人の選手が交代しながら出場し、フェルト製の「パック」と呼ばれる円盤をスティックで操りゴールを狙う。

この日は、SOに出場する19～33歳の選手13人が、同校の生徒らで作るチーム「K AAC」と対戦。選手たちは巧みにスティックを操ってコートを走り回り、時にはスライディングするなど気迫あふれるプレーを見せた。

トッキーズの稲月凌さん(23)は「もう少し動けたら、もっと相手の攻撃を止められた。本番では優勝したい」と意気込んだ。帆苺千恵さん(22)は「本番では相手のパスをしっかりと見極めて守りたい」と話していた。

## 色でお知らせ…花粉観測ロボ、全国1000か所に発送準備 読売新聞 2016年2月1日 出荷作業が進む花粉観測機「ポールンロボ」(28日午後、千葉市美浜区で) =前田尚紀撮影



花粉が飛散する前に、民間気象情報会社「ウェザーニューズ」(千葉市美浜区)が、家庭や病院、学校など約1000か所に貸し出す花粉観測機「ポールンロボ」の発送準備を進めている。

観測機は人の頭を模した直径15センチの球体で、軒下などにつるして花粉量を計測。量が多くなるにしたがって白から青、黄、赤、紫と色が5段階に変化。気温や湿度、気圧なども観測できる。同社は毎年貸し出しており、今年の花粉飛散量は全国的にやや少なめと予測している。

## AED、まずはゲームで学ぼう クイズに答え救命目指す 朝日新聞 2016年2月1日

AEDの操作方法などが学べるサイト上のゲームの入り口

心臓が止ま

った人の命を助けるAED(自動体外式除細動器)についてウェブサイトで学べるゲームを、日本循環器学会などがつくった。操作方法を楽しみながら身につけてもらう狙いがある。

医師や教育関係者らでつくる「減らせ突然死プロジェクト実行委員会」のサイトで1日、公開された。

ゲームは、旅館で倒れた男性をその場に居合わせた人たちが助けるサスペンスドラマ仕立て。物語の中で、男性の意識を確認する方法や、AEDの使い方、心臓マッサージの仕方などに関するクイズ10問に答えていき、男性の救命を目指す。

総務省消防庁の統計では、2014年に心停止で倒れるのを目撃された約2万5千人の





うち、AEDが使われたのは約4%。同学会AED検討委員会の三田村秀雄委員長は「まずはゲームで正しい方法を知ってもらいたい。そして、実際に倒れた人を見たら、救命にとりかかってほしい」と話す。実行委員会のサイト (<http://aed-project.jp/suspence-drama/>) で体験できる。(福宮智代)

## ”ディープな大阪”堪能 モノポリー「環状線版」 大阪日日新聞 2016年2月1日

世界的に人気のあるボードゲーム「モノポリー」に、「大阪環状線版」が誕生し、話題となっている。2008年発売の大阪版に続き大阪では第2弾のご当地版モノポリー。新世界や天神祭など大阪を象徴する場所や催事のほか、外観に特徴がある公衆浴場など“知る人ぞ知る”スポットも升目に採用した。従来のおもちゃ愛好家に加え、鉄道ファンへの売れ行きも好調で、ブームとなる可能性がある。

大阪環状線版モノポリーを説明する植田さん。「ディープな大阪を楽しんで」と呼び掛けている＝大阪市浪速区の大阪府立大 I-site なんば

1935年に米国で発売されたモノポリーは、サイコロを振り、こまを進めて土地や建物を売買し、資産を増やしていくゲーム。日本では、秋田、大阪、横浜などのご当地版が発売されてきた。

大阪環状線版は、日本モノポリー協会（糸井重里会長）がJR西日本の要請を受け、1年半かけて開発。モノポリー国内発売元のタカラトミーが5千個限定で製造した。JR西は、大阪環状線版モノポリーに登場する観光資源などを印刷したラッピング列車を走らせるなど、コラボ企画も進行させている。

大阪版に続き、大阪環状線版も監修したのは、日本モノポリー協会地方振興担当理事、植田幹浩さん（48）＝大阪市在住＝。大阪版では、大阪府全域を舞台に大阪城や通天閣など有名なスポットを多く採用しているが、今回は大阪環状線周辺にエリアを絞り、より“ディープな大阪”の魅力を掘り起こした。

大阪環状線の全19駅が登場。日本一の高さを誇るビル「あべのハルカス」やグランフロント大阪の中核施設「ナレッジキャピタル」など、大阪版の発売時にはなかった施設も取り入れている。

寺田町駅の升目にある、「入浴」と「ニューヨーク」をかけて建物の外観に自由の女神像としゃちほこを取りつけた公衆浴場「源ヶ橋温泉浴場」など、マニアックな施設も。植田さんは「戦時中でも自由の女神像がアメリカのものだとあまり知られておらず、撤去されなかった逸話が残っている」と語る。

ゲームで使うカードは、JR西のIC乗車券「ICOCA（イコカ）」のデザイン。カードの裏面では「ピエラ玉造にいきまひよ」などと大阪弁を使い、紙幣の単位は、大阪の商売人のジョーク「ほな、お釣りは百万円な」にちなみ、「萬（まん）円」としている。

植田さんは、大阪版での経験から「アニメの『聖地巡礼』のように、ゲームに取り入れることで集客効果が望める」と話しており、地元以外で知られていない大阪の魅力を、より多くの人に知ってもらいたいとの思いをゲームに込めている。

大阪環状線版は、同線各駅のコンビニや土産店、東急ハンズ梅田店（大阪市北区）などで販売されている。

